

平成29年度第1回鎌ヶ谷市環境審議会 会議録

日 時 平成30年2月6日(火) 午前10時～午前11時30分
場 所 総合福祉保健センター4階 会議室
出席委員 木下勇委員、長谷川雅美委員、浅海博行委員、小高魁委員、菅野勝利委員、
蓬田盛弘委員
欠席委員 菊池修次委員
説明者 千葉県県土整備部
道路計画課外環道・北千葉道路班 白川主査、香取副主査
都市整備局都市計画課都市計画班 横須賀副課長、伊藤副主幹
関係者 環境省関東地方環境事務所環境対策課 池田環境影響調査員
鎌ヶ谷市都市建設部
小嶋副参事(事) 都市計画課長、貞方道路河川整備課長
傍聴者 0人
事務局 斉藤市民生活部参事(事) 次長(事) 環境課長、松本課長補佐(事) 環境計
画係長、高野環境保全係長、春日主任主事、山田主事、石垣主事補

1 開会

正副会長が選出されるまで、事務局が議事を進行。

本日は、鎌ヶ谷市環境審議会規則第3条第2項の規定による定足数に達していること及び傍聴希望者がいないことを報告。

2 議事

議題1 会長・副会長の選出について

鎌ヶ谷市環境審議会規則第2条第1項の規定により、委員の互選により会長に木下委員、副会長に長谷川委員が選出された。

本日の会議録署名人は会長、副会長を除いた名簿順により、浅海委員、小高委員となった。

議題2 一般国道464号北千葉道路に係る環境アセスメント手続き(計画段階環境配慮書)について

千葉県より一般国道464号北千葉道路(市川市～船橋市)の計画段階環境配慮書・構想段階評価書について説明。

(副会長)

今回は、環境影響評価の際の方向性等について、意見を出すということでよいか。

(千葉県)

そうである。また、今後手続きを進めていく上での意見もいただきたい。

(C委員)

全体的なスケジュールを教えてください。

(千葉県)

今の段階で、スケジュールは確定していないが、完成までには10年、15年かかると思われる。

(会 長)

オープンハウスはどこで行われたのか。また、どのような意見が挙がったのか。

(千葉県)

配布資料の「北千葉道路だより第3号」の裏面に掲載の会場で開催し、鎌ケ谷市ではきらり鎌ケ谷市民会館で開催した。参加者は2日間で100名弱であり、日照など住環境の問題について意見が出た。

(副会長)

沿線市で同時期にこのような審議会が開催されていると思うが、今回の動きはいつ頃からはじまり、どのような過程で行われたのか。

(千葉県)

昭和44年に都市計画決定されていたが、鎌ケ谷市～市川市間については事業化されてこなかった。国道464号線は県が管理している道路ではあるが、事業規模が大きくなるため、国で事業化してほしいと要望をしていた。平成24年度頃から国、県及び沿線市で北千葉道路連絡調整会議を開催し、その都度地域の課題等について検討を進めてきた。東京外環自動車道が今年の6月までに開通するというので、北千葉道路に接続する道路について目途が立ったため、本事業を進めるに至った。

(副会長)

事前に鎌ケ谷市からはどのような要望があり、計画段階環境配慮書の中でどのように充足されているか。

(千葉県)

今までは、行政間のみで議論を重ねてきた。現在は構想段階なので、沿線市の環境審議会等で意見をいただきながら、今後の事業を進めていく。

(A委員)

計画段階環境配慮書15ページの騒音の状況について、「面的評価の調査結果をみ

ると昼間・夜間とも環境基準値以下となっている場合は、15.4パーセント～100パーセント」と記載があるがどのように捉えればよいのか。

(千葉県)

騒音については、現在のところ事業実施想定区域の23地点で調査を行い、その結果、自動車騒音に係る環境基準の達成度は15.4パーセント～100パーセントと幅がある。環境基準を100パーセントの達成をしている区間もあれば、15.4パーセントしか達成していない区間もあるということを示す。今後は、環境影響評価の実施の段階で現地の調査や評価を行い、対策などを示していく。

(A委員)

15.4パーセントとなっている地点は、騒音について、今後対策をしていくのか。

(千葉県)

北千葉道路に影響する範囲であれば、対策をしていく。

(副会長)

配布資料の印西都市計画とは。

(千葉県)

広域都市計画のため、白井市と印西市をあわせて印西都市計画となっている。

(副会長)

環境影響評価の考え方で、計画段階環境配慮書で動物、植物、生態系、景観と個別に分類されているが、全てが一つとなって形成されているため、それらを一体化した形で見ていただきたい。

また、都市化された場所が事業の対象とはなるが、事業化を進める中で、希少種への配慮やどう自然再生していくかという観点で環境配慮をしていくことが都市部では大切である。都市地域における住環境を良くするという観点から自然を復元するという視点を持っていただきたい。

(会 長)

アメリカやオランダ等では、エコロジカルネットワークの中で、生物多様性を都市部でどう復元していくかという方向性が出されている。千葉県には里山という世界に情報発信できる資源がある。里山は日本の自然観を示したものであり、自然だけでなく文化的にも世界に情報発信できるものである。ある部分を開発したら、ある部分を自然再生のために使うというミティゲーションを考えることが国際的なスタンダードになっており、都市と自然の共生の課題である。国際連合のSDGs(持続可能な開発目標)の中でも様々な部分で取り入れられており、自治体が取り組むべきミッションとなっている。

公共的な事業を行う際には、何が公共の福祉かということ、SDGsなどの広い視野で考える等、県にはストーリーを整理していただきたい。

(副会長)

計画道路沿いに市制記念公園等があるので、そこへのアクセスをしやすくする等、この道路が繋がることでどのようなメリットがあるかと考えた時に、自然環境を残すことや、再生していくということを配慮の段階で謳っておいて、道路整備と公園整備を繋げていけるとよい。

(D委員)

農業的土地利用に影響があると記載されているが、どのような影響があるのか。

(千葉県)

トラクターなどの迂回道路の整備や日照、大気の問題が挙げられる。

(D委員)

鎌ヶ谷市では、面積的にどのくらい道路がかかってくるのか。

(千葉県)

都市計画案作成の段階になった時に、具体的にわかる。

(会 長)

道路から梨園などの農的な風景がどう見えるかといった、総合的な景観が重要である。景観の調査で、シミュレーションする等、全体を繋げた観点から考えていただきたい。

(A委員)

土地収用などは、事業実施に向けて高いハードルとなっているのか。

(千葉県)

事業の必要性を説明し、早い段階から近隣市民に情報を周知することで住民の理解を得て、早期の解決に向けて取り組んでいる。

(会 長)

ほかに意見がなければ、一般国道464号北千葉道路に係る環境アセスメント手続き（計画段階環境配慮書）についての審議は終了する。

(事務局)

ご議論いただいた内容については事務局で取りまとめ、今後進められる手続きについての要望事項という形で回答させていただきたい。

また、現在庁内の各部署にも意見照会を行っており、回答にあたっては、それらも加味する。

回答案については、本来、再度本審議会を開催し、ご了解を得るものであるが、回答案を会長にご確認いただくということで、対応させていただく。

また、今後の手続きとして、次の段階で「方法書」が作成されることとなる。その際は再度、ご審議いただきたい。

3 その他

(会 長)

環境の施策については市民や行政が協働して行っていくことが重要になってくる。審議事項がある時だけ環境審議会を開催するのではなく、情報交換や鎌ヶ谷市の施策について議論する等、その他の機会にも環境審議会を開催した方が議論も進むので来年度以降検討していただきたい。

(事務局)

承知した。

4 閉会

(会 長)

それでは、以上で平成29年度第1回鎌ヶ谷市環境審議会を閉会する。

以上、会議の経過を記載し、相違ないこと証するため、次に署名する。

平成30年3月8日

署名人 小高 魁 _____

署名人 浅海 博行 _____